

## 「大里遺跡の活用について」

1 学校名 三島村立大里小・中学校

2 学年・人数 小学生 9 人 中学生 5 人

### 3 日時・場所

#### (1) 学習会等の日時・場所

9月22日(金) 4校時 発掘体験(中1, 2人) 大里地区内

9月25日(月) 5校時 発掘体験(中2, 2人) 大里地区内

9月28日(木) 6校時 発掘見学(中3, 1人) 大里地区内

11月20日(月) 全校朝会 大里遺跡についての講習会 本校集会室

#### (2) 発表の日時・場所

特になし

### 4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

#### (1) 名称・時代

おおさと いせき  
大里遺跡(縄文時代後期～晩期, 中世初期～現代)

#### (2) 特徴

中世初期の中国産陶磁器や中国系瓦が多く発掘される。とくに注目されるのが、中世初期の中国系瓦の豊富な発見で、日本では従来、博多遺跡群と薩摩半島西部の万ノ瀬川流域の遺跡、硫黄島でしか発見されてこなかった。分析の結果、この中国系瓦が中国の国際貿易港・寧波で生産され、日本に輸入されたことが判明し、大里地域が、博多とともに中世初期における日宋貿易の一大拠点であった可能性を示す結果となった。

### 5 保存会や地域との連携の具体

大里遺跡の発掘調査が地域内で行われていることを知ってはいても、その詳細を知らない子どもたちが多くいたので、全校朝会の時間を利用して、鹿児島国際大学中園研究室のみなさんを招いて、大里遺跡についての講習会を行った。3Dプリンターを用いたレプリカや、実際に発掘された遺物を用いて、大里遺跡の貴重さを子どもたちに分かるよう説明していただいた。また、鹿児島国際大学の中園先生と連絡をとり、発掘現場に中学生を連れて行き、発掘体験をさせることができた。その際、実際に白磁や青磁、土師器といった陶器を発掘し、子どもに達成感を味わせることができた。

### 6 活用の取組の工夫した点

本校には、地区内で発掘された遺物が展示してある。しかし、その資料にどのような歴史的価値や意義があるのかはほとんど知られていない。そこで、講習会の際に、大里小・中学校保管資料を用い、実際に手で触りながら地域の遺跡に興味をもたせた。また、中学生を対象に行った大里遺跡での発掘体験や見学では、その後の社会科等の授業での関連付けを行い、大里地域の特色として意識づけを行った。具体的には、中学1年の歴史で日宋貿易を扱う際、日宋貿

易の南の窓口として大里地域が重要な役割を果たしていた可能性や、発掘体験で実際に子どもが発掘した白磁や青磁がその根拠となることを説明した。中学2年の地理では、身近な地域の特色として大里遺跡をあげ、高齢化が進む大里地区の活性化を図るために、観光資源としての可能性を考え、どのように活用できるか話し合いをさせた。

## 7 取組の様子（研究発表，創作劇等）



## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

〈発掘体験を終えて〉

- ・ 発掘は、掘っているだけですが楽しく、白磁や土師器がでてくるともっと楽しかったです。
- ・ （発掘体験は）初めてだったので、黒島に遺跡があることや発掘の仕方など教えてもらったので、いい経験になりました。それにしても、地面をあんなに深く掘ってあるのを見たのは初めてです。
- ・ 土を水平にけずり、高さを同じにしながらさがしていく作業がとても難しかったです。また、ずっとしゃがみながら探すので、足がつかれました。実際してみて、思ったよりも大変な作業なんだな、と思いました。でも、きつい思いをしながら、探している内にすごくめずらしい物を見つけられた時は、ものすごくうれしい気持ちになるということが分かりました。
- ・ 前から調査に来ていたのは知っていたけど、遠い昔の土器などが埋まっていることは知らなかったので発掘できて嬉しかったです。